

【徒然草】

【1】(ある人、弓射る事を習ふに)

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ある人、弓射る事を習ふに、諸矢をたばさみて的に向かふ。師のいはく、初心の人、二つの矢を持つことなかれ。後の矢を頼みて、始めの矢になほざりの心あり。毎度ただ得失なく、この一矢に定むべしと思へといふ。わずかに二つの矢、師の前にて一つをおろそかにせんと思はんや。懈怠の心、みづから知らずといへども、師これを知る。このいましめ、万事にわたるべし。

(徒然草)

問一 次の言葉を現代仮名づかいで書け。

習ふ(習) ( ) なほざり( ) ( )

問二 本文中に、師の言葉がある。その言葉の初めと終わりの二字を、それぞれ抜き出して書け。

初め( ) ( ) 終わり( ) ( )

問三 「得失なく」の意味として適切なものを、次のア～エから選んで、記号で答えよ。

ア 心の平静を失わないで

イ ほめられようなどとは思わないで

ウ 当たり、はずれを考えないで

エ 怠け心を起こさないで

問四 「おろそかにせんと思はんや。」の意味を考えて、次の言葉に続けて、空欄に書き入れ、文を完成せよ。

わずかに二本しかない矢、師が見ている前で、その一本を( )

( )

問五 弓を射るときに必要な心構えを、すべてに通じる心構えになるように言い直して、次の空欄の中の言葉に続けて書け。  
(なごじつ)

(兵庫)

「解答」

問一 う、なおざり

問二 初め：初心 終わり：思入

問三 ウ

問四 粗末にしようなどとは思わない。

問五 においても、初めから心をこめて取り組まねばならない。